

プロダクトサイクル理論の解明  
— 米国企業の経営戦略に焦点を当てた一考察 —  
(報告要旨)

九州大学大学院博士後期課程

西村直人

Vernon (1966, 1974 1979) のプロダクトサイクル理論は (1) 所与の「外部環境」-企業間の競争関係を決定づける諸条件-、(2) 所与の「外部環境」と企業が製造する製品特性を踏まえた米国企業の経営戦略-特に既存企業や潜在的新規企業に対する優位性の獲得-、(3) 米国企業の経営戦略を踏まえた製品開発活動/生産活動の立地という 3 つの要素によって成り立っている。本論の目的は 3 つの要素の中の経営戦略の側面に焦点を当て理論の中に存在する米国企業の経営戦略を明確にしてプロダクトサイクル理論の本質を解明することである。プロダクトサイクル理論では所与の「外部環境」に対する米国企業の経営戦略を踏まえて各活動の立地が決定づけられているために米国企業の経営戦略が理論の根幹を成しており理論の中に組み込まれている経営戦略を明確にすることによって理論の解明が可能になるのである。

本論の目的を達成するために本論では以下の 3 点に取り組んでいる。第一に理論の詳細な説明を通して 3 つのプロダクトサイクル理論の中に上記の 3 つの要素が存在していることを確認することである。第二に 3 つのプロダクトサイクル理論に存在している米国企業の経営戦略を一般化した形で提示することである。そして最後に一般化したプロダクトサイクル理論の経営戦略を現代の経営戦略論と比較しその特徴を明らかにすることである。従って、第 2 章から第 4 章にかけて各理論の詳細な説明を通して (1) 「外部環境」、(2) 所与の「外部環境」や製品特性を踏まえた米国企業の経営戦略、(3)、R&D 活動と生産活動の立地の 3 要素によって成り立っていることを確認する。第 5 章では Vernon の初期のプロダクトサイクル理論の独創性が経営戦略に求められることを確認した上で各理論の経営戦略を端的にまとめ一般化した経営戦略を提示する。第 6 章では Vernon の経営戦略を現代の経営戦略論と比較しその特徴を明らかにすると共に Vernon は理論の中に非常に精度の高い経営戦略を組み込んでいることを示したい。

#### 参考文献

- Vernon, R. (1966), "International Investment and International Trade in the Product Cycle", *Quarterly Journal of Economics*, 80(2): 190-207.
- (1974), "The Location of Economic Activity", in J. H. Dunning, (ed.), *Economic Analysis and the Multinational Enterprise*, London: George Allen & Unwin, pp. 89-114.
- (1979), "The Product Cycle Hypothesis in a New International Environment", *Oxford Bulletin of Economics & Statistics*, 41(4): 255-267.